

令和5年度の重点課題

○1日の運動実施時間が、30分未満と回答する男子児童の割合が12%、女子45%である。昨年度の5学年児童の男子24%、女子32%と比べ女子の運動量が少ない。
○5学年男子は「握力」「上体起こし」などの全8種目中、「長座体前屈」を除く7種目が、全国平均値、県平均値を下回っている。5学年女子は全8種目中、「反復横とび」、「50m走」以外の6種目が、全国平均値、県平均値を下回っている。

上記の課題を受けて具体的に取組んだ事項

○ 授業の始めに、サーキット運動やACP(アクティブチャイルドプログラム)を取り入れて、筋力・全身持久力の向上を図った。
○ 県平均値を下回ったシャトルランと立ち幅とびを学校の重点課題として位置付け、全学年においてそれらの種目の練習や測定を行った。
○ 児童が外で遊ぶ機会を増やすために、学級レクを開催したり、教師が率先して外遊びをしったりした。
○ 学校生活の中にも、体力づくりを意識した活動を取り入れた(「ぞうきんしぼり(握力)」「机運び(腕力、背筋力)」「立腰(体)」)。

令和6年度新体カテストの結果 県平均値(令和5年度)・全国平均値(令和4年度)との比較

男子	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点	女子	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
第5学年	16.56	21.02	32.37	46.07	46.98	9.23	158.90	21.95	56.03	第5学年	13.90	20.84	36.93	41.55	36.57	9.68	148.84	12.02	54.65

県平均値かつ全国平均値未満

令和6年度新体カテストの結果 県平均値(令和6年度)・全国平均値(令和5年度)との比較

男子	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点	女子	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
第5学年	16.56	21.02	32.37	46.07	46.98	9.23	158.90	21.95	56.03	第5学年	13.90	20.84	36.93	41.55	36.57	9.68	148.84	12.02	54.65

県平均値かつ全国平均値未満

* 令和6年度の新体カテストの結果が公表された後に更新します。

運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか

男子	好き	やや好き	やや嫌い	嫌い	女子	好き	やや好き	やや嫌い	嫌い
第5学年	65.91	22.73	9.09	2.27	第5学年	60.00	40.00	0.00	0.00

学校独自の意識調査

○「運動やスポーツを1日にどのくらいの時間しますか。」という質問に対する回答が、30分未満は18%、30～60分は25%、60～120分は25%、120分以上は30%となった。
○「学習以外で、1日にどのくらいの時間、テレビやスマートフォンを見ているか。」という質問に対する回答が、1時間未満は12%、1～2時間は30%、2～3時間は26%、3時間以上は31%となった。

重点課題

情意面での課題

○ 運動習慣に関するアンケートについて(第5学年)
・テレビやスマートフォンを見る時間が長くなるほど、運動やスポーツをする時間が短くなっている傾向にある。
・「体育の授業は楽しいですか。」という質問では、肯定的に回答した児童の割合は96%に対して、授業以外で運動をする機会を問う質問では、週に2回以下の児童の割合が47%となっている。

体力面での課題

○ 5学年男子
・全8種目中、「長座体前屈」と「20mシャトルラン」が県平均値を下回っている。
○ 5学年女子
・全8種目中、「上体起こし」と「反復横とび」、「立ち幅とび」以外の5種目が県平均値を下回っている。
○ 総合評価割合
・総合評価(A～E)を表す割合が、EDの児童が23.7%となっている。

重点課題に対応した改善する取組内容及び方法

体育の授業で行う取組内容

・年間を通して、授業の始めにサーキット運動やACP(アクティブチャイルドプログラム)を取り入れた取組を継続して、筋力や全身持久力の向上を図る。
・鬼ごっこやドッジボールなどの活動を授業で取り入れることで、体を動かす楽しさを実感し、授業以外でも自主的に運動やスポーツに取り組むように仕向ける。
・多様な器具や用具、練習場所の中から、自己の課題に応じた場を選択することで、誰もが無理なく運動に取り組むことができるようにする。

体育の授業以外で行う取組内容

・休憩時間に学級レクをするよう促したり、曜日によって運動場の使い方を決めておいたりすることで、児童が体を動かすことを楽しめる機会や時間を増やす。
・体育委員会や運営委員会など、児童が主体となって運動の楽しさを味わえる活動を企画し、運営する。

令和7年度の重点目標値

○総合評価のED率を20%以下にする。
○「20mシャトルラン」の5学年の結果を、県平均値及び全国平均値以上にする。
○学校の重点課題である「20mシャトルラン」と「立ち幅とび」に全校で取り組み、県平均値を上回る児童の割合を増やす。
○授業以外で運動やスポーツを週に3日以上する児童の割合を、60%以上にする。